別　添　1

済州島での調査について

1　調査期間

平成 27 年 3 月 1 日（日）～3 月 4 日（水）

2　調査団の名簿（所属）〔役割〕

篠塚良嗣　専門研究員（立命館大学）〔サンプル採取〕
北川淳子　主任研究員（福井県里山里海湖研究所）〔サンプル採取、梱包〕
Prof. Suk chang Lee（スク チャン リー）
（National Promotion Committee for Restoring Hanon Crater）
〔現地案内、サンプル採取〕
Kyung ah Jung　（キュン ア ジュン）（同所属）〔通訳〕

3　調査内容

ハノンマール（マールは火山噴火でできた湖を意味する）およびハルラ山の湿地でロシア式ピートサンプラーを利用して堆積物を採取

4　調査目的

今回、採取した堆積物を利用して花粉分析と化学的分析をし、過去の人間活動による環境変化の歴史を調べる。調べた結果は、福井県の三方五湖や北潟湖の調査結果と比較し、同じ日本海に面した環境においての、人間活動の影響について比較検討する。

5　その他

済州島は朝鮮半島の南西の沖合約 90 キロにある火山島である。かつて、ハノンマールは湖で年縞堆積物を堆積していたといわれている。現在はその湖は完全になくなり、農業用地または放牧地として利用されている。1991 年に日本と韓国の共同ボーリング調査が行われ、4－6 万年の堆積物が採取され、その結果から気候学的に重要な位置の堆積物と言われている。しかし、過去 1 万年ほど、特に近年の人間活動との関連を重視した分析結果はほとんどない。福井県の環境史を同じ日本海にある済州島と比較をすることで、人間活動の環境への影響の違いを湖沼の堆積物を利用することで、客観的に評価する。